

近畿大学病院 地域連携広報誌

December 2019

KINDAI Vol.12

CARELINK

耳鼻咽喉科
嚥下入院

呼吸器外科
Uniportal
VATS

- 連携医登録について
- 紹介予約手続方法

Uniportal VATS（単孔式胸腔鏡手術）

Uniportal VATS について

Uniportal VATS（単孔式胸腔鏡下手術）は近年、ヨーロッパおよびアジアで拡がり、日本でもここ1-2年の間に急速に広がっている術式です。これまでの呼吸器外科の手術、主に肺癌治療のための肺切除は開胸手術や、多孔式胸腔鏡手術（胸の側面に孔を3-4か所）で行われてきました。また、最近ではロボット支援手術（ダヴィンチ）も行われていますが、創は4-5か所にむしろ増加しています。Uniportal VATS は3cmの創1個のみで、肺切除や気管支形成という高難度手術まで可能で、手術時間は胸を開け閉めする時間がほとんどかからないこともあり、大幅に短縮されます。さらに使用する道具の点から、手術コストもこれまでの多孔式胸腔鏡手術やロボット手術よりも安価となっています。そして何より、術後の疼痛が極めて少なく、キズもほとんど目立たず、回復も非常に早く患者さんに大きなメリットがあります。



ホワイトのエリアUniportal VATSが行われている地域

これらの利点のため、ヨーロッパ・アジアを中心に拡がっており、最近ではアメリカ、日本でも徐々に行う施設が増えています。その中で中国の Shanghai Pulmonary Hospital（上海肺科医院）では一施設で年間2万件近い肺の手術を行い、その大部分を Uniportal VATS で完遂しており、その高い技術力と相まって世界を驚かせています。

2018年4月から

Uniportal VATS を日本で最も早く導入

導入に当たり、ブタ心肺と肋間モデルを用いた練習キットを作成し、極めて実践的な練習を繰り返したのち、実際の患者さんで手術を行いました。欧米の外科医は一人で年間何百例、高名な外科医に至っては年1000件を超えるような手術を手掛けることも珍しくはありません。これに対し、わが国では医療体制の違いもあり、呼吸器外科の場合、症例数の多い外科医でも年間100件程度が限界で、事実私もそうでした。そのような状況で胸腔鏡下手術の中では最高難度であり、また日本でほぼ初めて行う Uniportal VATS を導入するに当たって、その特有の動きや、道具の使い方を自分の身体にしみ込ませるために、どうしても練習が必要でした。



そういった必要に迫られて作成したブタ心肺と肋間モデルを用いた練習キットでしたが、結果的に非常に実践的なものとなり、その取り組みは関西テレビ【報道ランナー】でも取り上げられました。また現在、同業の外科医の先生方に対して、Uniportal VATS ハンズオンセミナーという形でこのモデルを用いた研修を頻回に開催しており、好評を博しております。



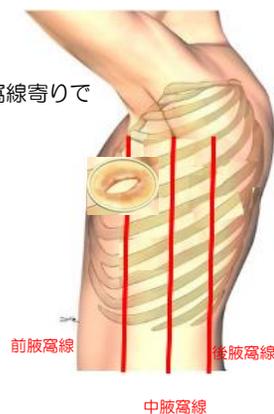
2019年11月現在で約100件に達し 国内ではトップクラスの症例経験数

こういった80歳以上の超高齢、間質性肺炎や高度肺気腫、心機能低下など多数の合併症を持つ患者さんに対しても Uniportal VATS を行い、非常に良好な結果を収めております。Uniportal VATS は1つの肋間しか使用しないため、術後疼痛も少なく、早期退院・社会復帰が可能です。また、これまで術後に天候不順や体調不良などがあると、しばしば出現していた肋間神経痛の頻度も低いようです。また癌の手術ですのでリンパ節郭清も重要になります。伝統的に我が国では、世界トップレベルの精度でリンパ節郭清が行われてきましたが、これまでより格段にキズの小さい Uniportal VATSでも同様な日本スタイルの郭清が当院では施行可能となっております。最近では、国内諸施設より先生方が見学に来られたり、遠隔地におられる先生方のために Virtual Reality (VR)で手術のポイントを配信したりするなど高まるニーズに答え、先進的な試みも行っております。

Uniportのポート位置(左)

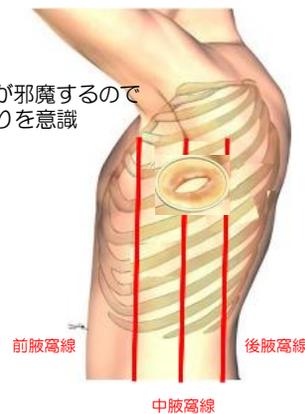
LUL(第5肋間前腋窩線寄り)

LULは前腋窩線寄り
でOK



LLL(第5肋間中腋窩線寄り)

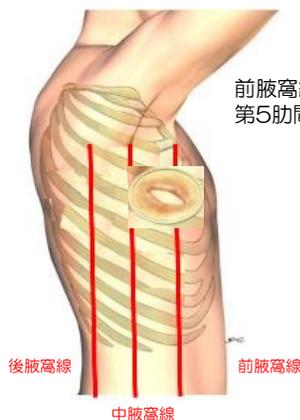
LLLは心臓が邪魔するので
中腋窩線寄りを意識



Uniportのポート位置(右)

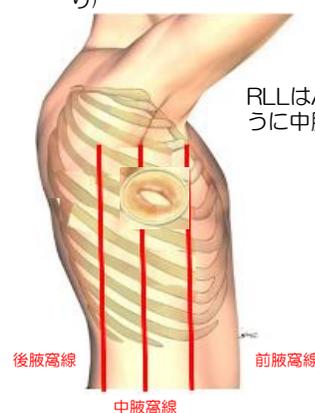
RUL(第4肋間前腋窩線寄り)

前腋窩線寄り、原法は
第5肋間。第3肋間もOK



RLL(第5肋間中腋窩線寄り)

RLLはA6がよく見えるよ
うに中腋窩線寄りがよい



ここまで Uniportal VATS 導入の流れを説明して参りましたが、最も大切なことは肺癌という病気を治すことでもあります。これまでは、その根治性を担保するためにある程度のダメージは許容されるという考え方であり、現在もその考え方は重要です。しかし、根治性を担保した上で、可能な限り低侵襲な治療を心掛け、それによりたくさんの方の合併症を持っていらっしゃる患者さん、超高齢の患者様などが手術のメリットを最大限に享受でき、痛みや苦しさ、術後合併症などのデメリットを極力軽減し、笑顔で日常生活に戻って頂けるように精進を続けていくことが外科医の責務であると考えております。私は Uniportal VATS はそのための大きな武器になると日々の手術のなかで確信している次第です。



最後に

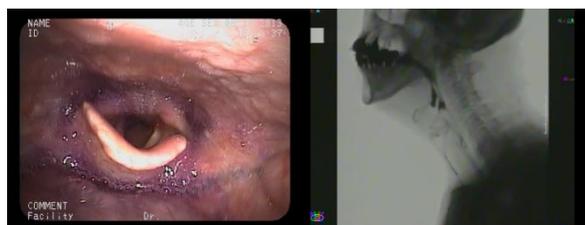
当院呼吸器外科では、ロボット支援手術も行っており、将来的には Uniportal VATS とロボット手術は高度に融合されていくかもしれません。私たち日本の外科医はこれまで保守的でした。患者さんの生命がかかっているのですから当然のことです。しかし、いつの間にかガラパゴスのように世界から取り残されている部分が目立ってきています。私たち近畿大学病院 呼吸器外科はそのような保守的な外科医や社会でも十分納得できる慎重さを持って、最先端の治療に果敢に取り組んで参りたいと考えております。その目指すところは最もシンプルで最も大切なこと、「**患者さんの苦痛に寄り添い、可能な限りそれを取り除くこと**」です。新たな手術法や新薬の開発など目まぐるしく時代と状況は変化していますが、肺癌治療の根本は一にも二にも早期発見・早期治療です。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

嚥下治療

嚥下入院

耳鼻咽喉科では嚥下障害の患者さんに対して、嚥下評価を行う短期入院を行っています。

嚥下障害の患者さんはADLが低下し、ベッド上が多いため、短期間（1-2週間）に集中して嚥下評価を行い、治療方針を立てます。近年、サルコペニアによる嚥下障害も報告されていることから体組成計を使った骨格筋量の測定や舌圧測定を行い、さらに嚥下内視鏡検査(VE)や嚥下造影検査(VF)によって総合的に評価します。保存的治療（リハビリ）の場合、全身状態と嚥下機能は関係するため全身的なリハビリを行います。つつ、嚥下訓練を行います。



嚥下内視鏡検査(VE)

嚥下造影検査(VF)

地域連携課もしくは当科にご相談していただければ、嚥下入院の日程調整いたします。



ジェントルスティム®

バイタルスティム®

訓練は嚥下時の姿勢や食形態の調整・選択のような代償的アプローチ法と嚥下反射惹起を促進、嚥下関連の筋力強化やストレッチ、誤嚥のリスクを軽減する嚥下法などの治療的アプローチ法があります。当院ではジェントルスティム®（干渉波電気治療機器）とバイタルスティム®（低周波治療器）による経皮的電気刺激療法を行っています。手術による改善が見込まれる場合は嚥下改善手術、誤嚥のリスクが高い場合は誤嚥防止術の提案をします。嚥下障害の原因が気管切開孔と関係がある場合はカニューレの変更や気管孔形成術も行っています。

連携登録について

地域の医療機関との機能分担を図り、信頼関係のある質の高い病診・病院連携を推進することを目的とした連携医登録の主旨にご賛同いただける場合は、連携医登録させていただきます。

ICT を利用した地域医療連携ネットワークシステムについて

概要

地域の医療機関をつなぐ連携ネットワークを構築することにより、診療情報（カルテ情報、画像、レポート等）の共有が可能になります。情報提供施設（近畿大学病院）は、「SS-MIX2 標準ストレージ」にデータを出かし、地域連携サーバを経由して連携先の医療機関に診療情報を公開（24時間情報閲覧可）

セキュリティについて

情報参照施設や情報提供施設とデータセンター間は IPsec-VPN を利用して高度なセキュリティが確保された通信網を使用。

情報参照施設側に必要なもの

インターネットに接続できるパソコンが1台あれば、地域医療システムをご利用いただけます。

【パソコンの環境条件】については、お問い合わせください。



情報参照していただけるもの

- 患者基本情報
- 病名
- 処方歴
- 検歴
- 各種オーダ情報
- 医師の記載
- 看護記録
- サマリー
- 経過表
- 画像情報
- 各種レポート

その他

- ・当院へ通院歴のある患者から同意をとっていただき、同意書を近畿大学病院地域連携課まで FAXしていただくと、すぐにその患者の情報を公開します。
- ・施設基準に適合しているとして近畿厚生局へ届出されますと、「電子的診療情報評価料」として30点算定していただけます。（診療情報提供料（I）を算定する他の保険医療機関からの1回の診療情報提供に対し1回のみ）
- ・2018年8月よりこのシステムを利用し、常時診察予約を取得いただける機能を追加いたしました。

ご希望される医療機関は、地域連携課までお申し出ください。

編集後記

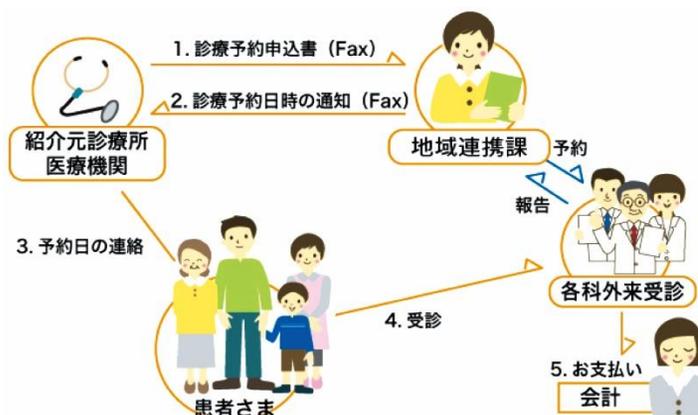
KINDAI CARELINKもデザインを一新し、4号目となりました。今回は、患者支援センター全体で行った懇親会の写真です。大変盛り上がりました。引き続き、和気あいあいと力を合わせて頑張っていきますので、今後ともよろしくお願いたします。



紹介予約手続き方法

紹介予約手続きは紹介元の医療機関を通じて行って頂きますようお願いいたします。

1. 診察予約申込書に必要事項をご記入のうえ、地域連携課までFAXをお願いいたします。
2. 患者様のご希望の日時で予約をとり、「診察予約日時の通知」をFAXにて返信させていただきます。
(平日20時まで対応いたします)
3. 患者さまに予約日時等をご説明いただき、診察予約日時のご通知・紹介状をお渡しください。



地域連携課

予約TEL:072-366-0241 FAX:072-365-7161

※ 予約に関するお問い合わせ

緊急患者紹介方法について

地域連携課	直ちに専門医療が必要な症例、病院事務から専門医に電話回送	072-366-0257
救命救急センター (24時間体制)	重度外傷・重症疾患、中毒・熱傷、その他の高度な救急医療	072-366-0250
脳卒中コール	脳卒中（発症24時間以内の麻痺、言語や意識障害、急性頭痛を呈する軽症から重症の患者）、くも膜下出血、脳腫瘍又はその疑い	072-366-0920
ハートコール	狭心症、心筋梗塞、心不全、不整脈、大動脈解離又はその疑いなどの重症循環器疾患	0120-145-810
周産期コール	産科救急（母体救急、胎児救急）、婦人科救急	072-366-0133

緊急時要請出動ドクターカーシステム

循環器疾患患者さまで緊急治療を要する場合、医療機関からの要請（相談）に応じ、医師がドクターカーに同乗し、患者さまをお迎えにあがります。

ハートコール心臓血管センター

0120-145-810

心臓血管外科

072-366-0221 (内線3138)



近畿大学病院
KINDAI UNIVERSITY HOSPITAL

KINDAI CARELINK vol.12 2019年12月
問い合わせ先：地域連携課
072-366-0257 (直通)